（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	こども発達支援センターおりーぶ			
○保護者評価実施期間	令和7年2月1日	～	令和8年1月31日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	20	（回答者数）	13
○従業者評価実施期間	令和7年2月1日	～	令和8年1月31日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	1	（回答者数）	1
○事業者向け自己評価表作成日	2026年　3月　24日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	幅広い年齢層と集団生活場面（保育園から高等学校まで）で支援を行う機会に恵まれている。多様な利用者、家族、教職員と支援中だけでなく面談等を通じて定期的に関わりを持てており、集団生活場面における直接支援・間接支援の手法や関わり方にもバリエーションが持てていること。	保育園と高等学校、通常級と支援級等、場面によって利用者のために支援者が行うべきことを判断し、適宜対象児（直接支援もしくは観察）や、その環境と情報共有（主として関わり方や特性に関する間接支援）を実施している。	対象児と支援者、教職員、家族といった大人との関係だけでなく、対象児の近くにいる他児（通常級、支援級問わず）の関わりを引き出し、支援者がいない時間帯であっても日常生活場面や学習場面で困り感が出ないような環境構築に取り組んでいきたい。
2	対象児の課題や難しさだけでなく、好きなことや得意なこと、夢中になれること、将来伸ばしていけそうなこと等を家族、教職員から伺うアセスメントの段階から実際の支援最中に収集し、対象児とその環境全体へ働きかけている。	対象児が自身でできることや順調に物事を進められている背景、夢中になれることや好んで行えることを発見したり構築しながら、対象児の強みを活かして学習や活動に取り組めるよう工夫している。また、難しさが募る場面とその背景も観察から明らかにして、教職員にできること、家族にも取り組めることを考慮しながら面談に望んでいる。	単独の視点で強み・弱みの把握をするのではなく、対象児、家族、教職員全体から意見や見立てを多面的に収集し、集団生活における学習や活動にて活用できる手段・方法を作り出したい。目下のところ、教職員との情報共有や連携の多くは担任や主任、コーディネーター等の範囲で行っており、本人に関わる多くの方々の知見を把握したい。
3			

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保育所等訪問支援に携わっている職員が一人であること。	観察、直接支援、情報共有（家族、教職員）を丁寧かつ綿密に行おうとすればするほど1件に係る時間は増え、捨象できる部分は減っていく。	減算となってしまうが、できるだけ同一場所で時間をずらしながら複数名の支援と情報共有を行っていく。
2			
3			